令和7年度　指定管理業務評価票

施設名：大阪府立花の文化園	指定管理者：はなぶんマネジメントパートナーズ
所管課：環境農林水産部農政室推進課	指定期間：令和5年4月1日～令和15年3月31日

評価基準および評価項目	指定管理者の評価 R7	府の評価 R7
Ⅰ　提案の履行状況に関する項目		
1　施設の効用を最大限に発揮するための方策		
（1）花に親しみ、花に学び、花で交流する場を提供する業務		
ア　花きの展示と散策マップの作成と公開　R5～ （特別展の実施、ARやQRコードによる詳細情報.展示のDX化等） 【指定管理者】 本年度は、来園者への情報提供の質向上と展示内容の充実を重点目標として取り組んだ。見ごろカレンダーを毎週更新し、 12月末時点で計39回掲載することで、園内の最新情報を継続的に発信した。 また、紙媒体の散策マップと公式SNSを連動させ、QRコードを活用することで、 紙面では伝えきれない植物情報を補完し、来園者の利便性および満足度向上に貢献した。 展示事業においては、前年度から継続して実施しているベゴニア展、サクラソウ展、ダイヤモンドリリー展、ギボウシ展やブルーアマリリス展を実施した。 さらに、近隣で活動する団体と連携し、山野草展や蘭展を開催することで、地域との協働による展示展開を進めた。 また、アサガオと風鈴を組み合わせた装飾展示では、前年の反省点を踏まえ、風鈴設置専用の木枠を新たに制作・設置し、 展示のボリューム感と視認性を向上させた。これにより、季節感を演出するとともに、来園者の注目度向上につなげることができた。 今後は、来園者の反応やSNSでの反響をより具体的に分析し、展示および情報発信のさらなる質向上を図っていきたい。 【府】 ・以前から課題としていた園内マップのデジタル化について公式SNSと連動した取組は、時代にそくした取組であり、評価できる。 ・新たな取組として挙げているアサガオと風鈴の装飾展示は、昨年から見た目の変化があり、工夫が見られた。 入園者数の低下が課題となっている夏場のコンテンツやイベント開催については、今後も努力が必要。 一度開催したイベントについては、来園者の反応を定量分析し、定例化するか検討してほしい。 **イ　ワークショップや体験会、講習会等のイベント実施　R5～** （ガイドツアーの実施等、学校ガーデニング、花摘み体験、ふうりんの設置ワークショップ等） 【指定管理者】 本年度は、定例イベントの充実と来園者・各団体のニーズに柔軟に対応したイベント運営に注力した。 土日の定例イベントに加え、各団体からの要望に応じて平日にもガイドツアーを実施し、 12月末時点で計54回開催することで、団体利用の促進と満足度向上に貢献した。 また、植栽スタッフによるバラやアジサイの育成講座を一般向けに2回実施したほか、 ボランティア養成講座を毎週木曜日に全21回実施し、人材育成および園の運営を支える体制づくりに取り組んだ。 ワークショップ事業では、前年度に実施した多肉植物の寄せ植えやリースづくりに加え 、動物展示の導入に関連させ、松ぼっくりを活用したフクロウのワークショップを新たに企画・実施し、内容の幅を広げた。 さらに、大花壇の植え替え時期に実施した花の抜き取りイベントが来園者から好評を得たことを受け、定例イベントとして継続実施した。 これらの取り組みにより、R7年度は計162回（複数日開催の場合もカウント）のイベントを実施し、 来園者の参加機会拡大と施設の賑わい創出に寄与できたと考えている。 今後は、イベント内容の質の向上と効果測定を行い、より魅力的な企画運営を目指していきたい。 【府】 ・来園者からの意見を反映し、イベントを定例化するなど、来園者増加・満足度向上につながる運営が出来た。 ・人気イベントの定例化は継続して取り組むとともに、今年の効果測定の結果を踏まえて、恒例イベントの見直しにも取り組む必要がある。 **ウ　インフォメーションの充実（接客マナーの向上）　R6～** 【指定管理者】 R7年度の顧客満足度調査（来園者へのスタッフ対応）において、「大変満足」「満足」の合計は88.95%となり、一定の評価を得ることができた。 前年は94.6%であったことから、前年実績には及ばなかったものの、スタッフ体制の見直しや来園者目線での対応を継続して行った成果は確認できる。 具体的には、従業員を増員し再配置を行うことで、すべてのお客様に目を向け、きめ細やかな対応ができる体制を整えた。 また、初めて来園されるお客様にも分かりやすいよう、利用方法や園内案内に関する掲示物を新たに設置し、迷いや不安の軽減に努めた。 今後は、前年実績との差を分析し、スタッフ間の情報共有や案内方法のさらなる改善を図ることで、顧客満足度90%超の回復と向上を目指していきたい。 レストランにおいては、園内で採れた野菜等が一目で分かるよう、メニュー横の掲示板を日々更新し、商品の魅力が伝わる工夫を行った。 施設利用のお客様には必要事項を丁寧に説明するとともに、 初来園のお客様には売店前で積極的に施設案内を行うことで、安心して利用いただける環境づくりに取り組んだ。 さらに、アンケート記入時には机に座って落ち着いて記入できる環境を整え、 駐車場までの道順が分からないお客様には、園で作成した地図を用いて丁寧に説明するなど、細やかな配慮を重ねた。 これらの取り組みにより、来園者満足度の向上につながったと評価している。 今後は、満足度90%超を目標に、引き続き接遇品質の向上とスタッフ育成に取り組んでいきたい。 【府】 ・顧客満足度は前年度に及ばなかったものの、約9割が「満足した」と回答しており、一定水準以上を維持していることは評価できる。 ・掲示板の新設等の来園者の不安感を無くすための取組は満足度向上だけでなく、リピーター獲得に寄与したか、検証してほしい。 ・1人1人の来園者に合わせた丁寧な対応は大切であるが、 スタッフの負担が増えないよう、必要に応じてDX化に取り組むなど、接客マナーに対する満足度の維持を図っていただきたい。 **エ　広報媒体の充実（SNSの充実等）　R6～** 【指定管理者】 本年度は、SNSを活用した情報発信の充実に注力し、 Instagram、Facebook、X（旧Twitter）、LINEの各媒体で、来園者や地域への広報力向上を図った。 （1月12日現在、Instagramは投稿件数1,175件、フォロワー数7,096名（前年5,180名）、Facebookは投稿件数1,175件、フォロワー数3,028名、 Xは投稿件数1,175件、フォロワー数2,666名、LINEは投稿件数31件、フォロワー数1,073名。） SNSの投稿では、火曜始まりの散策マップに合わせ、植物紹介を最低2件投稿するほか、 イベント情報や日常の様子も発信し、平均1SNSあたり1日5件の投稿を継続的に行った。 また、LINEでは主に毎週末のイベント情報や募集告知を配信し、来園者への情報提供の即時性と利便性向上に貢献した。 これらの取り組みにより、SNSを通じた園の認知度向上と来園誘引、情報提供の充実を図ることができたと考えている。 今後は、投稿内容の工夫や反応分析をさらに進め、フォロワーの拡大と来園者への効果的な情報発信につなげていきたい。 【府】 ・積極的な情報発信により、各SNSのフォロワー数が伸びていることは評価できる。 フォロワーが実際に来園する仕掛けづくりにより、来園者の増加につなげていただきたい。	A	A
（2）花きをはじめとする農業に関する理解を促進させる業務		
ア　農業（野菜や果物）について学び体験する機会の提供　R5～ （野菜および果樹の栽培、収穫体験の実施、野菜づくり連続講座、食農体験教室、養蜂見学体験会） 【指定管理者】、 ＜花卉＞抜き取りイベント1回（103名）、花摘み園15回（434組）、チューリップ球根配布4日（110組） ＜野菜＞たまねぎ収穫体験1回（2組）、ジャガイモ掘り体験4回（91組）、えびす茶摘み焙煎体験8回（75組）、しいたけ収穫体験6回（31組）、 スイートコーンもぎ取り2回（5組） ＜果物・ハーブ等＞しめ縄づくり体験2回（39組）、ミント白玉団子作り1回（9組）、干し柿づくり1回（2組）、フルーツ大福作り2回（13組） を実施した。（12月末時点） 本年度は、花卉・野菜・果物・ハーブ等を活用した体験型イベントを計画的に実施し、幅広い年齢層の来園者に農や植物に親しむ機会を提供した。 花卉分野では抜き取りイベントや花摘み園、チューリップ球根配布を継続的に実施し、安定した参加者数を確保することができた。 野菜分野においても、収穫体験やえびす茶摘み焙煎体験など、季節性と体験性を重視した企画を展開し、参加満足度の向上に寄与した。 また、果物・ハーブ等を活用した加工体験を実施することで、植物の鑑賞にとどまらない「作る・食べる」体験を提供し、事業内容の多様化を図った。 加えて、本年度より元府職員を講師とする「農業講座」を新たに開講し、年間7回の講座を通じて、専門的知識を体系的に学べる機会を創出した。 これらの取り組みにより、来園者の体験価値向上およびリピーター獲得に貢献できたと考えている。 今後は、参加者数やアンケート結果を踏まえ、より効果的な企画内容や運営方法の改善に取り組んでいきたい。 【府】 ・イノシシ被害がありながらも、多数のイベントを企画、運営、特に「農業を学ぶ機会」を充実させたことは評価できる。 今後は参加者の満足度等、各イベントの効果検証、分析、改善を図ることで、さらなる充実を図り、来園者の増加につなげていただきたい。 **イ　その他集客プログラム　R5～** （クラフト体験教室、地元の学校や団体の発表会の誘致、コスプレ開放日の設定等） 【指定管理者】 本年度は、定例イベントおよび体験・観察会の運営を通じて、来園者に多様な学びと体験の機会を提供した。 定例開催として、ガラスのものづくり体験（毎月第4日曜）、保護猫譲渡会（第4日曜）、 コスプレの日（毎月1回、更衣室無料貸し出し）を継続的に実施したほか、 フルルガーデン倶楽部による体験教室や生き物・昆虫・大人向け植物観察会の他、地元の学校や団体の発表会として 春・秋のフラワーコンサート（計41組）など、多様なイベントを展開した。 動物展示では、前年度より導入していたフクロウやヤギに加えモルモットを新たに導入し、2025年7月19日に「動物のおへや」をオープン、 73回のふれあいイベントを開催した。ヤギは2024年11月1日から2025年11月16日まで常時展示し、来園者に動物と触れ合える機会を提供した。 なお、2025年11月末に動物担当職員が退職したため一時的に展示を閉鎖したが、 12月に新たな職員を配置し、体制を整えて早期再開を図る（現在、職員は和歌山城動物公園にて研修中）。 これらの取り組みにより、来園者の体験満足度向上と学びの多様化に貢献できたと考えている。 今後は、動物展示体制の再開・安定化に加え、季節や来園者層に応じたイベント企画の工夫を進め、さらなる来園者満足度向上を目指していきたい。 【府】 ・「動物とのふれあい」は、来園者の人気も高く、新たなコンテンツとしてモルモットを導入し、園の新たな魅力として確立することができたことは評価できる。 今後はその魅力を積極的に発信し、来園者増加につなげていただきたい。 ・一方で、新たなコンテンツ以外のイベントは定例化しているものが多く、来園者の反応や来園者数等、効果検証を行い、内容等を充実してもらいたい。	A	A
（3）会議室利用や展示会及び品評会等の開催のため、施設を府民の利用に供する業務　R5～ **（メールを活用した施設予約の実施、図書閲覧）**		
【指定管理者】 本年度は、来園者・施設利用者の利便性向上を目的に、施設予約業務の改善に取り組んだ。従来はメールや電話での予約受付と公式HP上のカレンダー表示により対応していたが、2025年7月22日より、24時間受付可能なネット予約システム「Natmeg」を導入した。利用件数：315件 導入後、申込回数は314件、申込人数は2,569名となり、利用者が時間や場所を問わず予約できる体制を整えることで、施設利用の円滑化と来園者サービス向上に寄与した。また、職員側の予約管理作業も効率化され、人的負担の軽減につながった。 今後は、利用状況の分析やシステム活用方法の周知を進め、さらに多くの来園者・団体に利便性の高い予約環境を提供できるよう努めていきたい。 【府】 ・予約システムのDX化により、利便性の向上だけでなく、スタッフの負担軽減につながっており、評価できる。 ・今後、システム導入の効果を検証し、より利便性を高め、会議室等の利用が促進されることを期待する。	A	A
（4）花きをはじめとする農産物生産者や流通事業者等、農業に関わる事業者の経営向上につながる業務		
ア　生産者と種苗業者等の事業者、及び入園者が交流できる機会の提供 （アグリマルシェイベントの開催、家庭栽培相談会の実施、府内産野菜の仕入れ販売） 【指定管理者】 前年度から継続して「みどりめぐるマルシェ」を2回開催し、生産者・加工者と来園者をつなぐ交流の場を提供した。また、各種講習会や農業講座の実施、「みどりの相談」により、花や緑に関する知識普及と来園者の専門的な相談対応を行い、学びの場としての機能向上を図ることができた。今後は、参加者ニーズを踏まえた内容の充実と、さらなる参加促進に取り組んでいく。 【府】 ・「みどりめぐるマルシェ」は、生産者・加工者・来園者の交流の場となっていることは評価できる。 さらに、「みどりの相談」など、学びの場としての新たな機能を導入できたことも評価できる。 ・生産者等がどのように交流が出来ていたか検証するため、参加者ニーズや来園者の満足度を把握した上で、運営方法等の発展等に期待する。	A	A
（5）健康につながる食や体験の場を提供する業務		
ア　飲食提供等の食に関する提案　R5～ （レストランへの園内収穫物の供給、地元産品のメニュー化等） 【指定管理者】 園内で収穫された旬の野菜・果物・ハーブを活用したメニューを年間を通して提供し、地産地消の推進と来園者への食の魅力発信に取り組んだ。 また、河内長野産果物を活用したデジタルスタンプラリー等のイベントへ参加するとともに、 園内採れで栄養価の高いえびす豆のお茶を無料提供し、健康志向のサービス向上を図った。 【府】 ・レストラン周辺で栽培されている野菜は丁寧に管理が行われており、利用者に安心感を届けられていた点が評価できる。 ・栄養価の高い商品を提供するなど、健康増進の面で取り組んだことは評価できる。 **イ　食に関連したイベント　R5～** （大阪産（もん）を味わうマルシェイベントの実施等） 【指定管理者】 奥河内いちごスタンプラリー、いちじくスタンプラリー、フルーツベジスタンプラリーに参加し、地域連携による集客促進に貢献した。 さらに、桜・紅葉ライトアップ時の夜間営業や限定メニュー、梅こたつやあじさいの小川イベント期間中の限定スイーツ提供など、 季節性を活かした企画により来園者満足度の向上を図った。 【府】 ・府が実施しているイベント（スタンプラリー）にも積極的に参加し、イベントの充実に取り組んだことは評価できる。 ・夜間営業や限定メニューの提供等、季節性とお得感があるイベントを企画運営したことは評価できる。 ・今後は、企画やメニューごとの満足度を調査し、来園者の増加につながる工夫を行うことで、 園主催の新たな食イベントの開催等、満足度の向上と来園者増につなげてもらいたい。 **ウ　健康づくり体験の実施　R5～** （ノルディックウォーキングイベントの実施、スラックライン体験会の実施） 【指定管理者】 健康促進の取り組みとして、講師を招いたノルディックウォーキングイベントを継続開催し、定期イベント化に向けた基盤を整えた。 また、大阪府のアスマイル「おおさか健活マイレージ」への参画や、住友生命と連携した血管年齢無料測定会「大阪Vitalityチャレンジ」の実施など、 多様な連携による健康づくり支援を行い、施設の付加価値向上につながった。 【府】 ・提案に基づき、健康増進に向けたイベント実施により継続実施の基盤を強化するとともに、 府や企業との連携により、内容の充実を図ったことは評価できる。 ・提案事項であるスラックラインの実施についても、具体的に実施内容を検討し、取り組んでもらいたい。	A	A
（6）その他施設の管理運営に関する業務		
ア　ショップの運営　R5～ （府内産野菜等の農産物販売、オリジナルガーデングッズ等の開発、販売 【指定管理者】 園やきららファームで生産された農産物や、花の文化園35周年オリジナル鉢・クリアファイルの販売を通じて、施設の魅力発信と収益向上に寄与した。 さらに、園内で育成した花苗や一般的ではない花苗の品ぞろえを充実させ、他施設との差別化を図った。 また、動物制作やドライフラワーを活用した季節感あふれるワークショップを通年開催し、幅広い来園者層に体験型コンテンツを提供した。 【府】 ・ショップの運営について、スタッフの対応をはじめ商品ラインナップ充実のための仕入れ、見せ方や内装にも創意工夫があり、 SNSでの発信も評価できる。次年度は売上につながるよう、より一層の取組を図られたい。 **イ　その他の取組み　R5～** （レストランのカトラリー等における脱プラスチック化の実施、園内作業で発生する剪定枝等の再利用） 【指定管理者】 廃材や園内資源の有効活用に取り組み、環境負荷低減と循環型運営を実践した。 具体的には、処分予定の枯れ木をカフェ用トレイやコースターに再利用し、花壇のセンニチコウ・ケイトウをドライフラワーとして イベント装飾や販売に活用した。また、園内整備で伐採した竹材は園路の柵やどんぐりコースターに再利用し、松ぼっくりやコウヨウザンの実、 パンパスグラスの穂も装飾や販売に利用した。さらに、開花後のチューリップ球根を廃棄せず再利用する企画として配布に挑戦するなど、 資源の循環活用を積極的に推進した。また、繰り返し使用可能な食器の導入によりプラスチック削減を推進し、 レストランで発生する野菜くずを施設内の動物の餌として再利用するなど、環境負荷低減と循環型運営の実践につなげた。 【府】 ・廃材等の有効活用は、資源循環の観点から評価できる。 また、来園者に対する取組紹介についても、カフェやレストランでの装飾や見せ方が工夫されており、評価できる。 ・今後も、SDGsの観点から資源循環に取り組むとともに、来園者にも、環境負荷低減等の取組がわかるよう見える化を図りながら、 引き続き取り組んでもらいたい。	A	A
（7）自主事業、施設等の効率化に向けた投資		
ア　新たな魅力づくり　R6～ （園内での動物展示・集客力のあるコンテンツを活用した音声案内ガイドの設置及びコラボメニューの提供、園内案内板の改修及び新設） 【指定管理者】 7月19日に「動物のおへや」をオープンし、ヤギ・フクロウに加えてモルモットを導入することで、来園者が身近に動物と触れ合える場を提供した。 特に小児層や家族連れから高い評価を得るとともに、動物展示の拡充は園内滞在時間の延長や来園動機の多様化に寄与したと考えられる。 また、シルバニアファミリーとのコラボレーションを通じて園内飲食メニューや装飾を拡充し、SNSでの反響やファン層の注目を集め、 来園動機の創出につなげた。園内装飾には園内で採取した木の実やドライフラワーを取り入れ、園ならではの魅力を演出した。 さらに、キッチンカー「アンブロッソ」の招聘による限定人形販売イベント（12月）も実施し、シルバニアファンからの注目を獲得した。 表示がわかりづらくなっていた「ペレニアルガーデン」「ボタン・シャクヤク園」「バラ園」の園内案内板の改修を行った。 一方、大温室での音声付きキャラクター看板設置は、メーカー側の世界観の制約や費用面の課題から断念せざるを得なかった。今後は、コラボ企画や展示内容の魅力向上と費用対効果の両立に向けた工夫が求められる。 【府】 ・動物のおへやは、園内の新たな魅力と来園者の満足度向上につながっていることから、再度の設置、継続を期待する。 ・シルバニアファミリーとのコラボについては、メーカーの制限がある中でも、特にカフェでの取組が進んでおり、 来園者だけでなくファン層の注目を集めており、リピーター確保にもつながっていることは評価できる。 ・案内看板の設置については、現状難航しているが、カフェへの注目を集めることで、新たな来園者を確保するとともに、 展示している花や植物にも関心を持ってもらえるよう、費用対効果を考えながら工夫し、今後の企画、運営に期待している。	B	B
イ　イベントの実施　R5～ （イルミネーションイベント、梅コタツイベント、昆虫展、植物観察会など） 【指定管理者】 季節やテーマに応じた多彩なイベントを実施し、来園者の関心喚起と滞在満足度の向上に取り組んだ。 桜と紅葉のライトアップイベントでは、夜間入園者数514名（桜）および1,222名（紅葉）を記録し、 園内の和の雰囲気に合わせた紙提灯の販売も好評を得た。また、梅こたつ（前年度は2月8日～3月9日実施　今年度は2月11日～3月8日を予定）、 アジサイの小川（5月27日～6月15日）など、季節の花や景観を活かした企画により、来園者に季節感あふれる体験を提供できた。 夏期には世界の昆虫展（7月19日～8月31日）で2,941名の利用者を集め、また生き物観察会・標本作り教室（8月23日、24日）では 83名が参加するなど、自然や生き物に触れる体験型イベントの実施により、家族連れや学習目的の来園者層の満足度向上に貢献した。 これらの取り組みにより、季節ごとの来園動機の多様化や滞在時間の延長につながったと考えられる。 一方、今後は各イベントの参加者数や販売状況、アンケート結果などのデータを活用し、より効果的な集客施策の企画・運営を進めていく必要がある。 【府】 ・ライトアップイベントは、来園者数から注目を集めていたことが分かり、評価できる。 ・大人気イベントは定例化していくとともに、創意工夫しながら、継続した来園者の増加につなげてほしい。 ・イベントの充実、精査にあたっては、各イベントの効果検証をさらに進め、 費用対効果の面も踏まえ、最大限の効果が期待できるよう、企画運営を行っていただきたい。	A	A
ウ　施設・設備の改修・整備　R5～ （子供用施設の充実、送迎車の運行、図書エリアの整備等） 【指定管理者】 子ども向け施設や来園者の利便性向上を目的とした施設整備を実施した。 旧特別会議室を改修してブックコーナーを設置し、お子様向け図書を揃えたほか、「おおさか河内材」を用いた小上がり床を移設し、 河内長野市とのコラボレーションを実現した。また、河内長野市の協力により園前駐車場を整備し、駐車可能台数を拡充した。 引き続き、団体来園者や歩行が困難な方への対応としてハイエースによる送迎サービスを実施し、来園者の利便性向上に寄与した。 今後も施設の利用状況や来園者のニーズを踏まえ、快適で安全な環境づくりを進めていく必要がある。 【府】 ・地元材を使った図書スペースを整え、子どもや保護者などが安心して楽しめる、温かみのある空間づくりができていたことは評価できる。 今後は、より積極的に情報発信するなど、利用者が増えるような工夫の継続を期待する。 ・利便性向上の方策である送迎サービスは一定保評価できるが、利用者から分かりにくいため、 運営上支障のない範囲で工夫し、より快適で利用しやすい環境づくりを進めてもらいたい。	B	A
2　入園者の増加を図るための、利用者サービスや利便性向上		
（1）その他施設の管理運営に関する業務		
ア　平等利用の確保　R5～ （ベビーバギーや車椅子の貸出、事故発生防止、授乳室やおむつ交換コーナーの整備等） 【指定管理者】 来園者の利便性向上と快適な環境づくりのため、園路の毎朝の点検・清掃を徹底するとともに、授乳室やおむつ交換コーナーを整備した。 また、各トイレへのサニタリーボックス設置により、お子様連れの来園者はもちろんのこと介護が必要な男性や病気でパッドを使用する人など、 誰もが安心して利用できる環境を整えた。 【府】 ・各トイレへのサニタリーボックスの設置は、多様化が進む中で必要な取組であり、誰もが安心できる環境づくりが出来たことは評価できる。 **イ　利便性の向上**（支払い方法の拡充、夏季におけるミスト発生器の設置）　R5～ 【指定管理者】 入園料および施設内ショップ・飲食店での支払い方法を現金に加え、クレジットカード、電子決済、QRコード決済に対応。 さらに、来園者が事前に入園チケットや施設利用を購入・予約できるシステム「Natmeg」を導入した。 夏季期間には暑さ対策としてミスト機を設置し、6月から9月まで稼働させることで快適な園内環境を提供した。 【府】 ・多様な決裁方法の導入は提案内容どおりの取組であり、利便性向上につながることから評価できる。 ・また、夏季のミスト導入等、熱中症対策にも取組快適な環境を提供していることは評価できる。 **ウ　周辺施設との連携　R5～** （道の駅、いずみふれあい農の里、ハーベストの丘、その他植物園等） 【指定管理者】 地域施設や近隣企業との連携による来園促進策を実施した。 グループ施設ハーベストの丘との連携で、花の文化園「世界の昆虫展」と「昆虫館」ダブル来場者に特典を提供。 また、地元河内長野市のコミュニティFM「奥河内ラジオClub」との会員証提示で入園料割引、 さらに近隣施設とのレシートキャンペーンも継続して実施した。指定管理施設「長野公園」との広報誌交換により、地域連携の拡大にも寄与した。 【府】 ・各施設や企業との連携やコラボ等に積極的に取り組んだことは評価できるが、来園者数増加につながっていない。 園内の魅力向上、情報発信、効果分析を行い、目標とする来園者数の確保に向けて、より一層の努力を期待する。	A	B
（2）利用者満足度調査等		
ア　来園者アンケートによる利用者の意見の把握　R5～ 【指定管理者】 令和7年度の顧客満足度調査では、「大変満足＋満足」が92.8%※顧客満足度調査（来て満足されましたか？）を記録した（前年：95.5%）。 来園者の大部分が満足しており、園内サービスや施設環境が高く評価されていることが確認できた。 【府】 ・満足度調査については、各項目のクロス集計等によりさらに分析を進めるとともに、 より多くの来園者の意向を運営に反映して来園者増につなげるため、アンケート方法や対象を工夫いただきたい。 **イ　来園者アンケート結果等の運営への反映　R5～** 【指定管理者】 駐車場の利便性については改善の要望が多く寄せられたため、河内長野市と協議の上、駐車場の大規模整備を実施し、 4月26日より有料駐車場としてリニューアルした。利用料金は1台500円としたが、 園内レストラン・カフェ・ショップおよび独自イベント（収穫体験など）で利用できる500円分のクーポンを付与することで、 来園者の利便性と満足度の向上につなげた。 【府】 ・市との調整により駐車場を整備し、クーポンの導入等により来園者の利便性や満足度の向上に取り組んだことは評価できる。 しかし、昨年度駐車場の運用が始まることで来園者の増加が見込めるとしていたにも関わらず、結果としてつながっていない。 来園者増につながるよう、さらなる改善に努められたい。	A	A
3　施設の維持管理の内容と的確性		
（1）適正な植物　R5～		
【指定管理者】 園内の植物管理においては、早朝出勤や特定日のシフト集中など業務体制を見直し、熱中症対策を含めた作業改善を実施することで、 疎かになりがちな夏季の植栽維持管理を徹底した。花壇については、随時一部植え替えを行い、花の少なさや傷みを来園者に見せない工夫を図った。 さらに、酷暑や豪雨など近年の異常気象や気候変動を踏まえた植物管理を実施し、耐暑性・耐雨性のある植物の選定や配置の工夫により、 年間を通じて美しい景観を維持できる体制を整えた。これにより、来園者に常に魅力ある園内環境を提供するとともに、植物の健康と長寿命化を両立させた。 【府】 ・季節に応じた植物の管理は適切に実施しており評価できる。	A	A
（2）点検、補修の的確性、迅速性　R5～ （清掃の徹底、定期点検の実施）		
【指定管理者】 園内施設については、清掃の徹底や定期点検の実施により、点検・補修が的確かつ迅速に行われる体制を確保している。 また、施設設備等の改修については都度府へ報告し、情報共有を行っている。 【府】 ・老朽化が著しい箇所や危険な箇所については園内だけでなく府との情報共有が図られ、それぞれの役割分担の上、適切に実施されている。	A	A
Ⅱ　適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項		
1　収支計画の内容、的確性及び実現性		
（1）事業収支の計画に対する妥当性　R5～		

令和7年度　指定管理者評価調書

施設名：大阪府立市の大仏園	指定管理者：はなぶるマネジメントパートナーズ
所管課：環境農林水産部鳥獣管理室	指定期間：令和6年4月1日～令和10年3月31日

評価基準および評価項目	指定管理者による評価 R7	府の評価 R7
【指定管理者】 過去の実績や季節変動、イベント等による収入の増減を踏まえて事業収支計画を策定しており、収支のバランスや必要経費の実績ベクトルにおいて妥当性が確保されている。今後も定期的に実績と計画を比較し、必要に応じて修正を行うなど、計画の適正性を維持する。ただし、入園者数の増加が見込まれるなか、人件費や物価の高騰が事業運営に影響を与えている。 【府】 ・来園者数の増加を図るとともに、利用者へのサービスが低下しないような収支管理は大きな課題である。 ・駐車場の整備は完了したため、より一層の事業に努め、収支の改善を図られたい。	B	B
2　安定的な設営が可能となる人的能力		
（1）事業実施に必要な人材・人員数の確保・設営　R8～		
【指定管理者】 ・1月に動物責任者の欠員が発生したが、12月に動物責任者候補の人員を確保した。 引き続き、法関係者の採用と現がい者雇用の受け入れ体制を整備している。 障がい者雇用については入れ替わりが多いため、常時5名以上の雇用確保に努めている。 【府】 ・人員体制が整ったとは評価できる。引き続き、障がい者雇用については、提案に基づく継続雇用に努められたい。	A	A
（2）従事者への管理監督体制、安全体制　R8～		
【指定管理者】 ・1部署に部署長を配置し、部署内の管理監督を行っている。 事の責任者は各部署長に対する管理監督を担い、部責任者は園責任者の業務を補佐している。 また、毎月部署長会議を開催し、各部署間の情報共有および課題の共有を図っている。 【府】 ・管理監督体制については従業員が最大限の力を発揮できるよう、 引き続き、従業者との円滑なコミュニケーションや情報交換等を行い、風通しの良い職場づくりに努められたい。	A	A
（3）従事者への研修実施　R8～		
【指定管理者】 NPO法人PA事業本部から配信される研修について、社員は各自受講している。 また、パート・アルバイトを含む全従業員に対しては、年1回の研修を実施している。 【府】 ・スタッフのスキルアップは利用者の満足度にも寄与するため、引き続き、現在の園の実態にあった研修を実施するとともに、 スタッフの希望にあった研修の受講も検討されたい。	A	A
3　安定的な設営が可能となる財政基盤		
（1）共同企業体を構成する法人の設営状況　R8～		
【指定管理者】 加盟入りも、引き続き安定した経営状況を維持している。 【府】 ・安定運営のための財政基盤については、引き続き財政規模の整った経営を求める。	A	A
Ⅲ　その他管理に関して必要な事項（府施策との整合）		
1　府施策との整合		
（1）府が実施する事業への支援・協力　R8～ （府の方針に沿った事業を実施する法人への協力、府内在住の生活困窮支援、福祉関係事業への協力、地元雇用の促進、Osaka A Green Action）		
【指定管理者】 前年度に引き続き、福祉施設からの作業体験受入れおよび市内中学校の職場体験受入れを実施した。 また、府庁弁護を活用した生活困窮支援を行うとともに、周辺地域の活性化対策にも積極的に協力した。 さらに、府が実施した「阪神内フルーツブラニック」等のイベントへも積極的に参加し、園の魅力発信・PRにつなげた。 【府】 ・府主催イベント等に常に協力的であり、評価できる。今後も協力をお願いしたい。	A	A
（2）就職困難者の雇用・就労支援　R8～		
【指定管理者】 12月末時点では就職困難者の新規就労者の受入れ実績はなかったが、大阪府広域就労支援事業「A’ワーク創造館」と連携し、 今後の受入れに向けた体制整備を進めている。	A	A
（3）障害者・高齢者の雇用状況　R8～		
【指定管理者】 障害者就業・生活支援センターと継続協議を行うとともに、ハローワークへの求人掲載を継続した。その結果、12月末時点で7名の雇用を確保している。 【府】 ・雇用確保のため努力している。引き続き取り組まれたい。	A	A
（4）府民、NPOとの協働　R8～		
【指定管理者】 園内管理において、NPO法人のボランティア団体と連携した活動を実施している。 また、園内管理にとどまらず、学校ガーデニングや各種イベントへの協力等についても協働して取り組んでいる。 【府】 ・NPO等との連携については、令和7年度も引き続きサービス向上につながる協働を継続されたい。	A	A
令和7年度評価	A	

項目ごとの評価は、次の4段階評価とする

S：計画を上回る優良な実施状況
A：計画どおりの良好な実施状況
B：計画どおりでないが、ほぼ良好な実施状況
C：改善を要する実施状況

年度評価は、次の4段階評価とする

S：項目ごとの評価のうちSが5割以上で、B・Cがない
A：項目ごとの評価のうちBが2割未満で、Cがない
B：S・A・C以外
C：項目ごとの評価のうちCが2割以上。又は、Cが2割未満であっても、文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合

総合評価及び最終評価は、次の4段階評価とする

Ⅰ：評価対象となる年度の年度評価のうちSが5割以上で、B・Cがない
Ⅱ：評価対象となる年度の年度評価のうちBが3割未満で、Cがない
Ⅲ：Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ以外
Ⅳ：評価対象となる年度の年度評価のうちCが5割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組み状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く